

生涯学習を支援する電子図書館サービス



放送大学附属図書館長
松村祥子

子どもから高齢者まであらゆる年齢層の人々が、生活改善、職業能力の向上及び自己の充実等をめざして、自発的におこなう生涯学習普及の為にはこれまでとは異なる環境の整備が必要とされている。

特に生涯学習に取り組む高等教育機関（大学・大学院，短期大学，専門学校など）においては，高等教育の質を維持しつつ，学習者の多様な能力と学習方法への対応が求められている。そこでは，学習者の主体的な学びを支える図書館への期待が非常に大きい。しかし実際には，生涯学習者の図書館活用状況は十分とはいえない。その原因の一つとして，さまざまな地域に住み，異なる時間帯にそれぞれの方法で学習・研究に取り組む学習者のニーズに応えていない図書館が多いということがある。

電子図書館サービスは，この問題を解決する最も有力な手段となるだろう。

できるだけ多くの人々が自由に情報・知識へのアクセスができるようにと目指してきた図書館の歴史に画期的な新状況をもたらそうとしている電子図書館を人類の叡智の向上に結びつける為に，広範な分野の研究者・教育者及び図書館関係者の真摯な取り組みがおこなわれている。

本特集では，わが国における電子図書館サービスの現状と課題を明らかにする中で，生涯学習者にとっての図書館のあり方を検討することにした。収録されている6論文においては，電子図書館への移行に欠かせない課題と論点が明らかにされている。

「放送大学における図書館電子化の意義」（三浦正克）では，わが国の生涯学習の中核機関として全国各地の8万人をこえる学生を擁する放送大学附属図書館の現状を踏まえたe戦略の方向を具体的に提示している。「遠隔教育を支援する大学の電子図書館サービス」（三輪眞木子）では，米国大学図書館協会等の遠隔学習者支援にむけたサービス基準にそって遠隔学習支援サービスの要件を検討し，次いで欧米の主要公開大学の電子図書館サービスの事例を示しながら遠隔学習を支援する大学図書館サービス改善策を述べている。「図書館の検索インターフェースとユーザー支援技術」（片岡真ほか）では，学術情報の電子化の中で生じているユーザーと検索装置・技術のギャップを詳細に検討している。図書館がユーザー指向のサービスを持続的に提供していくためにはシステムの調達と組織の人的資源管理に問題があると指摘されている。「学習支援としてのバーチャルレファレンス」（齋藤泰則）では，重要度を増す情報源の選択・評価という間接サービスの展開方法（パスファインダー含む）を理論的・実践的に論じている。「オープンアクセスの理念と現状」（倉田敬子）では，情報メディアの電子化の進展と大学図書館の役割変化の中で，現代のオープンアクセスが直面する課題を示している。「大学における教育コンテンツ公開システム」（山田恒夫）では，生涯学習における学習者の多様なニーズに応える教育資源管理について論じている。機関リポジトリのあり方やコンテンツ流通システムの課題を明らかにし，知識基盤型社会の形成に向けての具体的提言をしている。

電子図書館は、電子図書や電子ジャーナルなど電子化された情報資源を離れた場所から利用できるのも、「いつでも、どこでも、だれでも学ぶこと」を目指す生涯学習に最適な形態である。しかし、電子図書館サービスは、本特集の各論文で取り上げられているように多くの課題を抱えている。新しい時代の知の創造・蓄積を促進し、できるだけ多くの人が図書館を利用できる環境を実現するために本特集が活用されることを願っている。